

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 13日

公表:令和6 年 3月 17日

%評価

事業所名 子ども支援室 えがお

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83.3	16.7			
	2 職員の配置数は適切である	100			人件費的には1:1より多い人数を見れた方がいいと思うが、今の利用メンバーの特性を考えると1人で2人以上を見るのは難しい場面もある。なるべく背中を向けないように全体がみられるように気をつけてはいるつもりです。 一対一で付くことができるので、その子の成長に合わせて支援できるよう心がけている。担当が変わる時は、前日の様子をできるだけ伝えるようにしている。	午前の配置は1対1を理想として今後継続していきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	66.7	33.3		階段が急ではあるのと、段差があるのでつまづく子どもも多いなるべく手すりとは反対側の位置につくか下の位置について介助するようにはしている	構造上仕方がないことなので、怪我等に繋がらないように十分に気をつけていく。職員も意識して行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83.3	16.7			全てを見えなくするやり方ではなく、あるけれど切り替えが出来るように持っていくために、片付けや配置の環境は配慮していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	16.7		83.3	勤務時間の差があり、報道相がうまくできていない印象がある。職員会議を設けるなどして、みんなに同じタイミングで情報をおろす、検討する時間があるといいと思う	勤務の形態の違いがあり難しいが、参加できる時間を作っていく。各職員の意識をたかめていけるように、チームを意識化する
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66.7	33.3		保護者からの要望は取り入れていると思う	要望があれば伺い職員間で共有し対応をしていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50	50		InstagramやFacebookで繋がっている人は見れているが、フォローされていないと見ることができない	ホームページを作成すれば、更新をしていかなければいけない。誰のための評価でありなん尾ための評価であるかを考え、今後ホームページの開設を考える。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16.7	33.3	50	やっているかわからない	必要性があるようになってきているので適切な方が見つかれば次第依頼していく
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50	16.7	33.3	各自がそれぞれ勉強していることはあると思うが、社内研修などはできていない	各自の研修参加を設定して取り組んでいく。職員の意識向上のためにソフトを導入した。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	66.7	33.3			どの職員も計画を立てられるように学ぶ機会を作っていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	33.3	66.7		視覚的にわかりやすいように、マークをつける、写真をみせるなどはできているとおもうが、個々に合った支援法ももう少しあるといいと思う	ポーター等のアセスメントを使っていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	66.7	33.3			各領域に分けた個別支援計画を作成している
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	50	50			計画から実践へより具体的に示し、評価をしていく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	33.3	50	16.7	正規職員が検討してくれていて、それをみんなで取り組んでいる 不安なことがあれば前もって相談できるようにしている	担当部署配置を行っていく事で、チームを作り行えるようにする
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	66.7	33.3		季節ごととりのくみ、制作もできていると思うが、もう少し手指を使った活動も入れてもいいと思う 月にいろんなジャンルの活動ができるようにしてある	子どもたちが混乱をしないようにスケジュールはほぼ固定。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	83.3	16.7			専門的療育の個別(言語訓練)や個々に必要なビジョントレーニング、タッチケアを継続していく
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100			できてはいるが、勤務時間帯が違う職員が点在するため、打ち合わせに出た職員から引き継ぎノートを見せでもらうことで適応している。わからないことは都度聞くようにしている	担当部署配置を行っていく事で、チームを作り行えるようにすることで、参加できる職員が増え、共有できる事が増やしていく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16.7	50	16.7	当日中に必要な報道相は必ずするようにしている 勤務時間帯が違っているので、終了時には話すことができない 子どもの変わった様子等あれば伝えるようにしている	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	50	33.3	16.7	記録を取る時間がなく、先送りになってしまっている	個々に担当児童を記録していたが、記入しやすい様式を考えていく

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100				
----	---------------------------------------	-----	--	--	--	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83.3	16.7			児童発達支援のシステム的なことや、事業所の理念を共有し、事業所の立場（個人の立場ではない）で責任を持って参画できる者を育てていく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	50	50		職員の力量不足も懸念される。人によってできるできないがある	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	33.3	67.7			看護師配置がないこともあり、ケアの必要性が高い利用希望者には問い合わせ時にきちんと情報をお伝えしていく。 職員が不安、対応がむづかしく感じる場合は無理しての契約はできないことを理解をしていただく。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	33.3	67.7			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83.3	33.3		連携を取ろうとしているが、実際難しい気がしている。もっと話し合いをしたいが、相手側の受け入れが悪い印象	周りに、事業の理解をして頂けるように、目的をお伝えし、繰り返しお願いをさせていただく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16.7	83.3			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33.3	50	16.7		子ども連絡かいで、センターの方とは連携をとるようにしている。ケース検討等の開催には参加できる時は参加できるように配置を考える
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	83.3	16.7		活動として健常児の多い施設へは遊びに行っているが、関わりとしては怪しい	小規模保育園とは交渉をし、交流できるようにはしているので今後企画をしていく。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	66.7	33.3			参加する役職が決まっているので、職員皆さんに参加していただくことはできないので、会議等内容は伝えるようにしている
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100			ノート記述、送迎時に確認して必要であれば代表と連絡して行っている	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	16.7	50	33.3		ペアトレはできていないが、保護者の参観は取り入れているので、継続をしていく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83.3	16.7			契約時、変更がある時は今後も伝えていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83.3	33.3			ガイドラインの読み合わせを行っていく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100				気軽に相談できる事業所のカラーを大切にしてい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	16.7	33.3	50		父母の会のニーズを調査していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83.3	16.7			相談申し立てがあった時は迅速に対応していきたいと思っている。また内容や対応を周知していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16.7	66.7	16.7		紙ベースではむづかしい。連絡や活動の場面はラインにて保護者に」お伝えしてい
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	66.7	33.3			絵カード等のツールの作成
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		66.7	33.3		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	66.7	33.3			非常時に職員が即座に対処できるように繰り返し行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83.3	16.7			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	83.3	16.7			保護者と話し合いをしている。発作、発熱、体調の変化は共有しあっている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60	40			指示書が必要なアレルギーの場合は指示書をいただいたり、注意、対処を伺い周知していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	50	50			朝の打合せ等で共有しているが、ヒヤリハットを提出しないに意識差があるので記入に持っていきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83.3	16.7			不適切言動を踏まえ、学びの時間をいれた。お互い伝えやすい職員環境の維持に心がける。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	50	33.3	16.7		

全体：

○職員体制を考えて責任を持って進めていけるチームの強化

○職員の意識向上に向けての研修の設定